

別記様式（第8条関係）

平成26年4月22日

上ノ国町議会議長
若狭大四郎様

氏名 片石鉄彦



平成25年度政務活動費に係る収支報告について

上ノ国町議会政務活動費の交付に関する条例第8条第1項(第2項)に基づき、別紙のとおり平成25年度政務活動費収支報告書を提出します。

別紙2

政務活動報告書

- 1 政務活動名 ○第3回国際農業資材EXPO 視察研修
○アグリテック特別講演農業をゼロからはじめて売上3億円 鹿児島県大崎町 (有)大崎農園 中山清隆、佐藤和彦氏
- 2 政務活動内容 日時 平成25年10月9日(水) 9:00~18:00
場所 千葉県 幕張メッセ
目的 ①土、肥料、施設園芸用品などの資材をはじめ、農業IT、6次産業用資材、太陽光発電設備など、注目の最新技術まで展示公開を視察し、地域農業に生かせないか検証する。
②優良な農業経営体モデルを見聞し、地域農業への導入の方向を探る。
- 3 政務活動成果 ①世界の先進技術を習得できた
②野菜の栽培販売で、14年間で3億円の売上に成長した経営戦略を研修できた。

なお、詳細は別紙のとおりです。

- 注) 1 政務活動名には、実施した活動名を記載する。
(例～〇〇調査研究、〇〇研修、〇〇広報・広聴、〇〇会議など)
- 2 政務活動内容及び政務活動成果には、具体的な内容とその成果を記載する。

政務活動報告書

上ノ国町議会議員 片石鉄彦

(1) 第3回国際農業資材EXPO

平成25年10月9日(水)千葉県幕張メッセで開催、9:00から受付、9:30より、大手商社などVIP50名がテープカット、世界10数カ国から230社が出展された。当日は各省庁、議会関係者、メーカー、生産者、流通関係者などで混雑した。

会場には、水稻から加工品まで230のブースに、世界の技術を紹介したコーナーが設けられ、特にIT技術の進歩は驚かされた。

同時に第10回世界フラワーEXPOが開催され、世界の花が展示紹介され、特殊栽培技術も公開されていた。



(開会式の様子)

下は水稻の自動栽培管理システムです。水や肥培管理、病害虫の予測などを自動で行い、スマートホンなどに通報したり、パソコンなどで制御できるそうです。

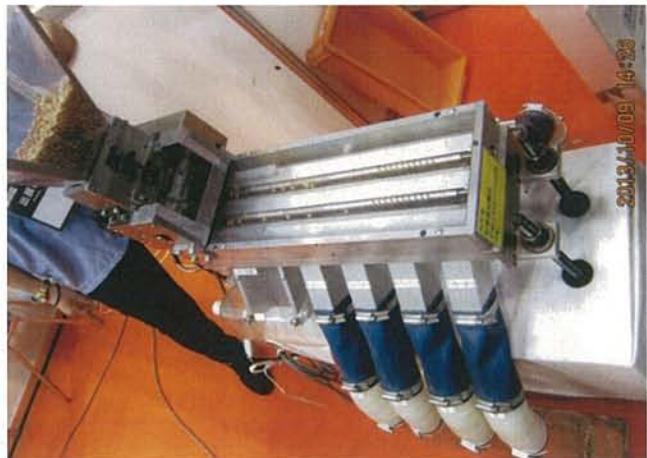


米の加工用機器は米粉や精白設備のほか、自動販売機、パンや麺の製造機、ぽん菓子機、成型真空包装機やその各種資材など、相当数のブースがあり米の消費拡大のために、加工品の販路拡大が今後さらに必要になると思われる。

下はトマトの水耕自動栽培管理システムです。初期投資がかかるが、次年度以降は消耗資材だけの購入になるので、コストは抑えられるが、培地が農家できれば、採算がとれると思われる。



野菜や果樹の加工用機器の実演コーナーは果菜類のジュース、ジャム、麦や豆の粉や麺の製造機など、品目ごとの製造ラインで実演、一次加工、試食した。特に麦の新品種による麺の試食も行われ、味の違いなど、ここでも消費拡大や、TPP後の生き残りの提案が多かった。



(豆の異物除去選別機)
豆の異物や変形などを除去し、規格別に1回で処理できる。特許申請中で製品化する予定のこと。



(ジャムとシュークリームの製造ライン)



(展示会場の様子)

研修の成果と課題

今、農業は国際化や高齢化の波におされ、どう乗りきっていくかが問われている。米は、国際競争力が弱く、国内の消費が年々落ち込んでいる。外国の米と競争するには、原料のコストをいかに下げ、付加価値をつけるための方策が、喫緊の課題である。野菜においては、秀品率を高め、外品の加工による、所得率の向上を図ることが必要である。安全、安心な農産品の栽培により、消費者の信頼を得ることが基本である。この研修で、コスト削減の技術、付加価値をつける手段、安全な栽培技術など、世界の動向を探ることができた。地域で何ができるか考えてみたい。

アグリテック特別講演 農業をゼロからはじめて売上3億円

鹿児島県大崎町 (有) 大崎農園

講師 中山清隆 氏 佐藤和彦 氏

大崎農園は、東海大学海洋学部の3人が、サラリーマンでない仕事をやりたいとの思いで、中山さんの故郷の大崎町に帰って、魚の養殖の仕事に取り掛かった。しかしその仕事がうまくいかず。悩んでいたところ、遊休地があるからやらないかと、地域の人から持ちかけられ、平成10年に15アールに葉ねぎを栽培、以後地域の協力により遊休農地などを集積し、経営面積を拡大、平成14年に法人を立ち上げました。

未来型農業への挑戦と今後の展望

～ゼロからはじめて売上げ3億円！～



有限会社 大崎農園
取締役農場長 佐藤和彦
専務取締役 中山清隆

農業はズブの素人で、3人の生活費もままならない、苦労の連続で、周囲の理解で徐々に栽培技術も習得していった。まず土づくりへこだわった

- (1) 各品目に適した土壤を追求
- (2) 土壤の比重に着目、物理性を改善
- (3) 土壤分析による施肥設計の実施
- (4) 良質堆肥、綠肥の導入を科学的に検証し、各圃場の管理を徹底した結果、計画どおりの生産工程管理が確立された。

有限会社 大崎農園の概要

法人設立から10年、この10月で売上3億円を達成した。

農業経営を確立するために

- (1) 栽培技術の確立
- (2) 工程管理、見える化により作業最大効率を追求する。
- (3) マーケティングを理解し、売れる物利益のとれる品目の追求
- (4) 外部環境の把握、先読みできる情報収集。
に力を入れている。

力強い農業を目指すための目標

- (1) 歩留まりと秀品率を上げる
- (2) 高値の時期に出荷を増やせる品目の組み立てと栽培技術
- (3) 10a、1haを基準とした投下労働時間の短縮。
- (4) 品目の旬な時期に利益を取る。
- (5) 売れるものを売れるだけ作る。
- (6) マーケティングを考え栽培品目を決める。
- (7) 工程管理をしっかり行い作業の平準化をはかる。に留意している

■ 農 場	鹿児島県曾於郡大崎町周辺
■ 設 立	法人設立平成14年11月12日
■ 構成員	役員3名 従業員25名
■ 経営規模	:ハウス70棟+露地 延べ 14ha :大根・ミニ大根 50ha :キャベツ 2ha :レタス・玉ねぎ苗・かぶ 1ha 2012年度作付 延べ面積 合計67ha
■ 出荷先	:30社(契約取引を主体に)

大崎農園は、マレーシアの農業指導を行っている。それは海外での栽培によって、端境期に日本への供給や、災害時のリスクを分散することである。

また、東南アジアの市場開拓も視野にいれている。「良い野菜が安全な管理の元、安定して栽培がされていえば、どのような人からも必要とされます」と大崎農園は言っている。

海外で気象災害のリスクが少なく、野菜の栽培の適したエリアの視察調査

鹿児島～東京

鹿児島～上海 ともに950km

1600km

1900km

950
km

4300km

鹿児島から中国近い！

バンコク・KL・シンガポール・香港のスーパー
マーケットの野菜の売価は日本とあまり変わ
らない

シンガポール

しかし、マーケット規模・販売方式には注意が必要

研修の成果

水稻栽培の経営は米の価格が設定され、補助金が入るので収支の予測ができるが、野菜栽培の経営は、天候や市況に左右されるので、予測が難しい。そういう中で確実に生産、販売している。これは、土づくりにこだわり、90%以上の農地の集積により作業ロスを少なく抑えたこと、安全な農産品の契約販売による価格の安定を図ったことなどによると思われる。また、大崎農園が農地の集積できたのは、地域の農業者や農業委員会の支援があったからだとことです。脱サラの若者が、わずか14年ほどで3億円の売り上げる企業農業に成長したのは、地域の教育力があったからだと思われます。本町においても、遊休農地の活用や集積の手法について、学ぶべきことが多いと考えさせられた。